

## 大腸癌研究会プロジェクト研究「虫垂癌の臨床病理学的研究」第三回ミーティング議事録

日時：2018（平成30）年7月5日（木）13:00～14:00

会場：朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター 3F 301A

出席者：村田幸平（関西労災病院）、賀川義規（関西労災病院）、内藤 敦（関西労災病院）、池田正孝（兵庫医科大学）、井出義人（八尾市立病院）、板橋道朗（東京女子医科大学）、伊藤雅明（国立がんセンター東病院）、岩下明德（福岡大学筑紫病院 病理）、岡村 修（吹田市民病院）、沖 英次（九州大学）、小澤平太（栃木県立がんセンター）、金光幸秀（国立がん研究センター中央病院）、岸本光夫（京都府立医科大学）、塩澤 学（神奈川県立がんセンター）、塩田哲也（西神戸医療センター）、塩見明生（静岡がんセンター）、山口 淳（新潟県立がんセンター新潟病院 瀧井康公代理）、竹政伊知朗（札幌医科大学）、舛石俊樹（愛知がんセンター）、中西正芳（京都府立医大）、能浦真吾（市立豊中病院）、福長洋介（癌研有明病院）、古畑智之（聖マリアンナ医科大学東横病院）、水島恒和（大阪大学医学部附属病山崎健太郎（静岡県立静岡がんセンター 臨床研究支援センター）、横溝 肇（東京女子医大東医療センター）、吉松和彦（埼玉県済生会栗橋病院）吉松和彦（埼玉県立栗橋病院）、小森孝通（大阪急性期総合医療センター）、池永雅一（市立東大阪医療センター）、福崎孝幸（済生会千里病院）  
その他オブザーバー数名

### 1. 前回の議事録確認と研究の進捗状況

IRB がまだの施設はできるだけ早く通して頂きたい。

8 月中に症例登録を終了。11 月には集計を目指す。来年 1 月の大腸癌研究会で結果発表。

ファイルメーカーがなくても開けるランタイムを配っている。

LAMN には T1, T2 はない。LAMN と腺腫の鑑別を再度確認頂きたい。

粘液癌のグレーディング。G1 は LAMN とほぼ同義。G3 は印環細胞を伴う。G2 はその間。

### 2. 腹腔鏡下虫垂粘液性嚢胞腫瘍切除の工夫（関西労災病院外科 内藤敦）

### 3. 大阪大学関連施設における虫垂腫瘍症例 第 2 報（大阪大学消化器外科 武田和）

大阪大学関連施設 2007 年～2016 年の 266 例を集計。粘液癌で Grade が分かっていたものは 57 例中 16 例であった。LAMN を含む良性腫瘍での死亡例は 5 例。原病死は 2 例でどちらも LAMN, 1 例は術時より M1b, もう 1 例は術後に腹膜偽粘液腫を来した。粘液癌 StageIV の 5 年生存率は 48%で比較的良好であった。その他の虫垂癌は大腸癌と同等の成績であった。

（八尾委員）LAMN の概念は新しいものであり、腺腫と診断されているものがあるのではないか。

（村田委員長）腺腫は各病院の病理医に再度の診断をお願いしたい。病理医宛への手紙を用意する。LAMN は癌として扱うことを再度認識する必要がある。

### 4. 虫垂腫瘍の病理について（京都府立医科大学病理 岸本光夫）

虫垂腫瘍 10 症例を提示

### 5. 症例入力ソフト・ランタイムの紹介（関西労災病院外科 賀川義規）

Windows にしか対応していない。どうしても Mac での入力希望の方は事務局まで連絡下さい。組織型のその他は自由記載が可能。エクスポートを押すと自動でデスクトップにエクセルファイルが作成される。その際患者 ID は消え、通し番号と内容のみになる。このエクセルデータを提出して頂く。8 月末の提出をお願いしたい。無理な場合は事務局まで連絡下さい。